

病院内における無線 LAN 利活用について

中山 裕隆

株式会社 フルノシステムズ

営業本部 営業技術部 西日本営業技術課

1. はじめに

近年、医療現場での無線 LAN 需要は電子カルテ以外でも高まっている。特に入院患者向けに Wi-Fi 環境を整備したいとの問い合わせ・相談も増えており、どのような形で導入すればいいのか？との相談が最も多い状況である。

外科病棟では、骨折等での入院の場合では身体を動かすことが難しいだけのため、仕事や趣味といった部分でインターネットへのアクセスに要望が高まっているとの相談も増えている。

また、待合室での待ち時間が長くなる傾向がある場合、インターネットアクセスする事で気分を変えろといった行動もあり、医療業務以外での利用も必要性が増しているという現状がある。

2. 利活用の内容

病院内では、各種医療機器でも無線動作する機器が増える傾向があり、それらとの干渉を避けるため、特定の運用のみの無線 LAN 機器が導入された傾向があった。

これに、入院患者向け・外来患者向けのインターネットアクセス環境の整備や、近年増えてきている防災用 Wi-Fi の整備（防災用統一 SSID である「00000JAPAN」の運用）も必要に迫られている様子がみられる。

専門の方だけではなく、広く一般の方々までが無線 LAN を利用する時代となってきたことが、医療現場だけで見ても必要な機器として整備されつつあると考慮しなければならないと感じる。

入院患者向けの Wi-Fi 導入で、以前は単純にインターネットアクセス環境を提供するだけといった簡単なものだけであったが、現在はさまざまなアプリケー

ションとの組み合わせで、サービスの提供まで行っている場合がある。

今回、紹介する有馬温泉病院様[1]ではナースコール設備の連携も併せて入院患者向けの利活用を行われた良い事例と考えている。

3. 今後の展開

「令和3年度新型コロナウイルス感染症感染拡大防止・医療提供体制確保支援補助金」が前年度に続き発表された。令和3年度では病室、入院患者向けの Wi-Fi 環境構築についても対象となっている。

これは、現在入院中の方々への QOL（生活の質、生命の質）向上の声が非常に高まっており、また病室 Wi-Fi 協議会の働きかけに厚生労働省も必要と判断した結果と考えている。

現在の社会情勢からも、今後はさらに配置の必要性が高まるものと考えられる。

4. まとめ

本稿ではこれからの医療現場における Wi-Fi 環境の最適な利用（セキュリティ、利便性、他環境への考慮、生活の質、生命の質）を提供するため、実際の稼働している事例を交えてご紹介する。

無線 LAN 機器は、適切な設定を行えば安全で便利な環境を提供する機器である。今後はさらに大容量の通信が行われ、高速な環境を求める声が高まると想定される。今回の資料が、早い段階での取り組みや準備を行うための参考となれば幸いである。

参考文献

- [1] フルノシステムズ 有馬温泉病院導入事例
(<https://www.furunosystems.co.jp/experien>)

[ce/2021/02/000924/](#)